

東山青少年活動センター 元利用者に

創立50年思い出写真募る

京都市東山青少年活動センター(東山区)は、創立50周年を記念して、同センターのサークル活動やイベントなど、思い出の写真を募っている。現在地に移転する前の建物のシンボルだったレンガ壁を模して、モザイク状に張り出して順次展示する。同センターは「活動を振り返り、再発見する機会にしたい」と、かつての利用者に協力を呼び掛けている。

同センターは1971年2月、東大路通七条上ルにあった区役所西側に「市東山青年の家」(勤労青少年ホーム)としてオープン。2001年、市東山区総合庁舎(東大路通松原下ル)の新築オープンに伴い、現在地に移転。30歳までの若者を対象に、芸術創作活動のサポートや就労支援などに取り組んでいる。

「思い出の写真展」は、利用者のOB、OGから寄せられた写真を、同センターのロビーの壁(高さ2・970年代の写真を中心に、200枚余りを展示している。ボウリングや卓球、スキーといったスポーツや、正月の餅つき、盆踊り、フォークダンス、隠し芸大会など、現在とは趣の異なる活動も多く、現役の利用者から驚きの声も上がっているという。



50周年を記念し、過去の主催事業や建物などを収めた写真を展示するボランティアスタッフ(京都市東山区・市東山青少年活動センター)

前施設レンガ壁模して展示

同センターのスタッフ、西田尚浩さん(63)は「設立当初は中小企業で働く若者たちの福利厚生現場としての性格が強かった。地方出身者も多く、サークル活動や講習会を通じて、仲間をつくりたいという思いは今よりもずっと切実だったはず」と話す。演劇や、アートの創作など、現在の活動をとらえた写真もある。写真の応募は1人3点まで。撮影年代や当時の思い出などを添えて、同センターに持参するか、メールでデータを送る。募集期間は来年1月末まで。詳しくは同センター075(541)0619かホームページ(長谷川真一)へ。水曜休館。



⑤写真を組み合わせて再現する旧センターの玄関。現在は京都国立博物館の資料棟として使われている(京都市東山区)
⑥展示写真の一部。スポーツなどの活動を通じて、若者たちが交流してきたことがわかる